

なるこ 鳴子ダムの貯水量回復を考慮した防災操作

平成30年8月5日洪水
(前線による降雨)

【鳴子ダムは、渇水対策としての貯留量回復、江合川沿川の浸水被害防止に努めました】

鳴子ダムでは、少雨と用水補給(かんがい)により貯水量が減少したため、渇水対応を図っていました。そうした中、8月5日に前線性降雨による出水が発生しました。

出水の前半では、渇水対策として利水のための貯水量回復に努め、今後のかんがい用水補給に万全を期しました。出水の後半では洪水調節を実施、沿川の浸水被害の防止に努めました。

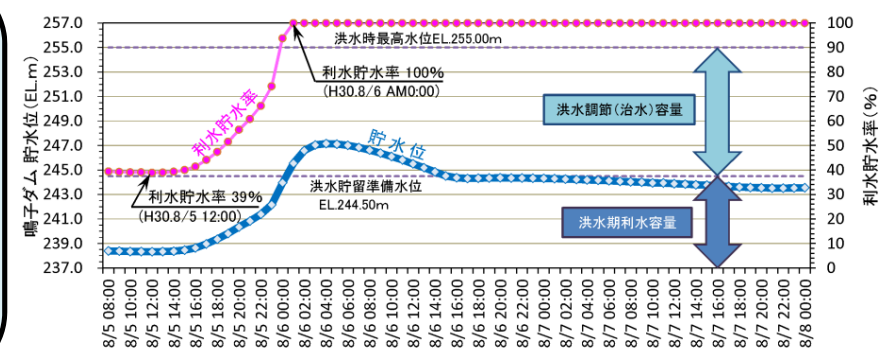
出水の概要(8月5日~8日)

- ・総雨量: 240.3 mm (流域平均)
- ・最大時間雨量: 29.5mm/h(6日22時)
- ・ダムの最大流入量: 680.30 m³/秒 (近年10カ年で最大、ダム建設以降の61年間で第5位の規模の出水)

防災操作

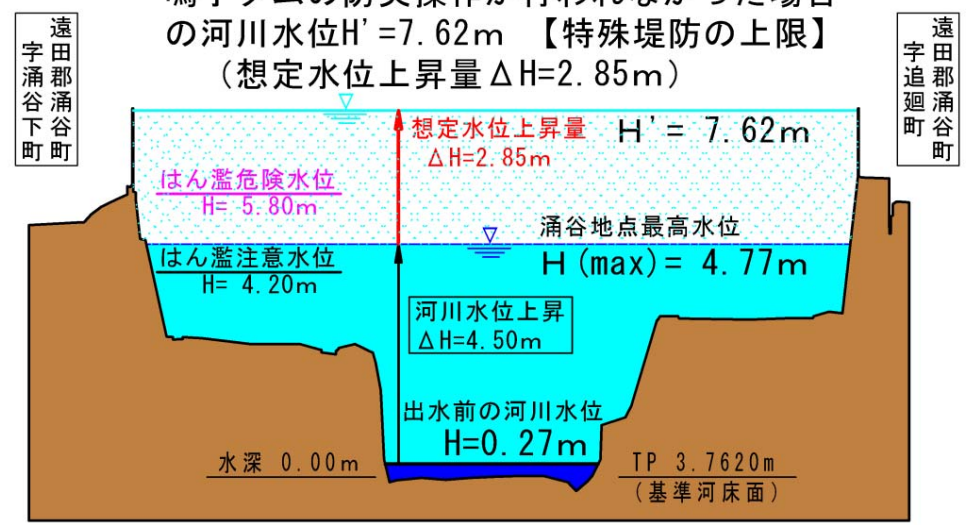
- 利水の効果(渇水被害への効果)
8月5日12時で利水のための貯水率が39%に低下していましたが、6日AM0時で100%に回復。
- 治水の効果(洪水被害への効果)
ダムへの最大流入量680.30m³/秒に対して放流量19.06m³/秒と、約660m³/秒の流水をダムに貯め込みました。これによりダムから約50km下流の「涌谷大橋」付近で河川水位を2.85m低減しました。

(注意事項) 今回発表されている観測値は速報値です。



鳴子ダム貯水位及び利水貯水率推移図

鳴子ダムの防災操作が行われなかった場合の河川水位H' = 7.62m 【特殊堤防の上限】
(想定水位上昇量 ΔH = 2.85m)



「涌谷大橋」付近

平成30年8月5日洪水 ハイδροグラフ

